

2014年7月～10月展示

## 上橋菜穂子さんの世界 ～人とその作品～

本学文学部を卒業し、文学研究科博士課程でも学ばれた上橋菜穂子さんが、2014年3月に国際アンデルセン賞作家賞に選ばれたことを記念し、上橋さんを紹介する企画展示を行うことにいたしました。

上橋菜穂子さんは、物語と研究という二つの世界で活躍されています。

1989年の『精霊の木』に始まる物語作家としての上橋さんは、「守り人」シリーズや『獣の奏者』など多くの人びとの愛読する傑作を生み出しました。さらに、これらの作品は各国で翻訳され、人びとに読まれて、上橋さんは国内外で多数の賞を受けられています。そして、今年の国際児童図書評議会の国際アンデルセン賞作家賞を受賞されました。

一方、文化人類学者としての上橋さんは、オーストリアの先住民に対し綿密な参与観察、面接調査を行い、生活史を資料とした研究と論文発表を続けておられます。2007年には本学から、『ヤマジ：ある「地方のアボリジニ」のエスニック・アイデンティティの明確化と維持について』により、博士（文学）の学位を取得されました。

このように二つの世界で活躍される上橋さんの作品に、一人でも多くの在学生がこの展示をとおして新たに出会い、奥深い物語の世界を楽しむことになればと願っています。

なお、この展示は、司書課程科目履修中のボランティア学生によって製作され、図書館の協力を得て行われています。

立教大学司書課程主任  
中村百合子

ボランティアとしてこの展示の製作に参加した学生

池田智実（文学部）、石山紗衣（社会学部）、岩戸夏海（文学部）、大場南（文学部）、河合恵（文学部）、齊藤加菜（文学部）、佐竹春香（現代心理学部）、須澤紫織（法学部）、鈴木和香菜（文学部）、高橋智美（経済学部）、野村周平（文学部）、堀合裕太（文学部）、諸岡美緒（文学部）、吉原紗（文学研究科）、渡辺白砂（文学部）

ご協力いただいた方々

上橋菜穂子さん、片桐はいりさん

偕成社、講談社、新潮社、理論社の皆さん